

『B型肝炎に対する第4番目の経口剤』

肝臓川柳



『B肝の 新薬すごく 良いんやってのお (福井弁)』
(いいんやってのお…やってのお…てのお…てのほお…テノホビル)

B型肝炎ウイルス療法として経口薬の核酸アナログ製剤が広く使用されていますが、

【これまでの3種類】

- ・ラミブジン (ゼフックス)
- ・アデホビル (ヘプセラ)、
- ・エンテカビル (バラクルード) に加えて、

今年5月新たに『テノホビル (商品名テノゼット)』が保険収載されました。

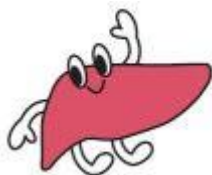
強力な抗ウイルス力があり、エンテカビルとほぼ同等です。

【特徴は】

- ◆耐性が出来ず、既存薬の耐性例にも効果がある
エンテカビル耐性例やラミブジン+アデホビルの耐性例には
切り替え対象になり得ます
- ◆妊婦にも安全に使用出来る
初回例、妊婦には第一選択となります

アデホビルの亜型であり、腎障害が懸念されていますが、
実際に問題となる例はほとんどいない (eGFR 30 までは問題ない) そうです。

B型肝炎核酸アナログ製剤のラインアップは日本でも揃いました。
今後は、全く作用機序の違う、核内に入り込んだ HBV cccDNA に
直接作用する治療薬や宿主側に作用する治療薬も開発中であり、
B型肝炎の治療薬もまだまだ発展途中です。



これだけ覚えておけば損はない!

今回のポイント

B型肝炎ウイルス療法として経口薬の核酸アナログ製剤に
新たに『テノホビル (商品名テノゼット)』が薬価収載されました
特徴として、耐性が出来ず、既存薬の耐性例にも効果があることと
妊婦にも安全に使用出来る事があげられます
今後新薬も開発中であり、B型肝炎の治療薬もまだまだ発展途中です